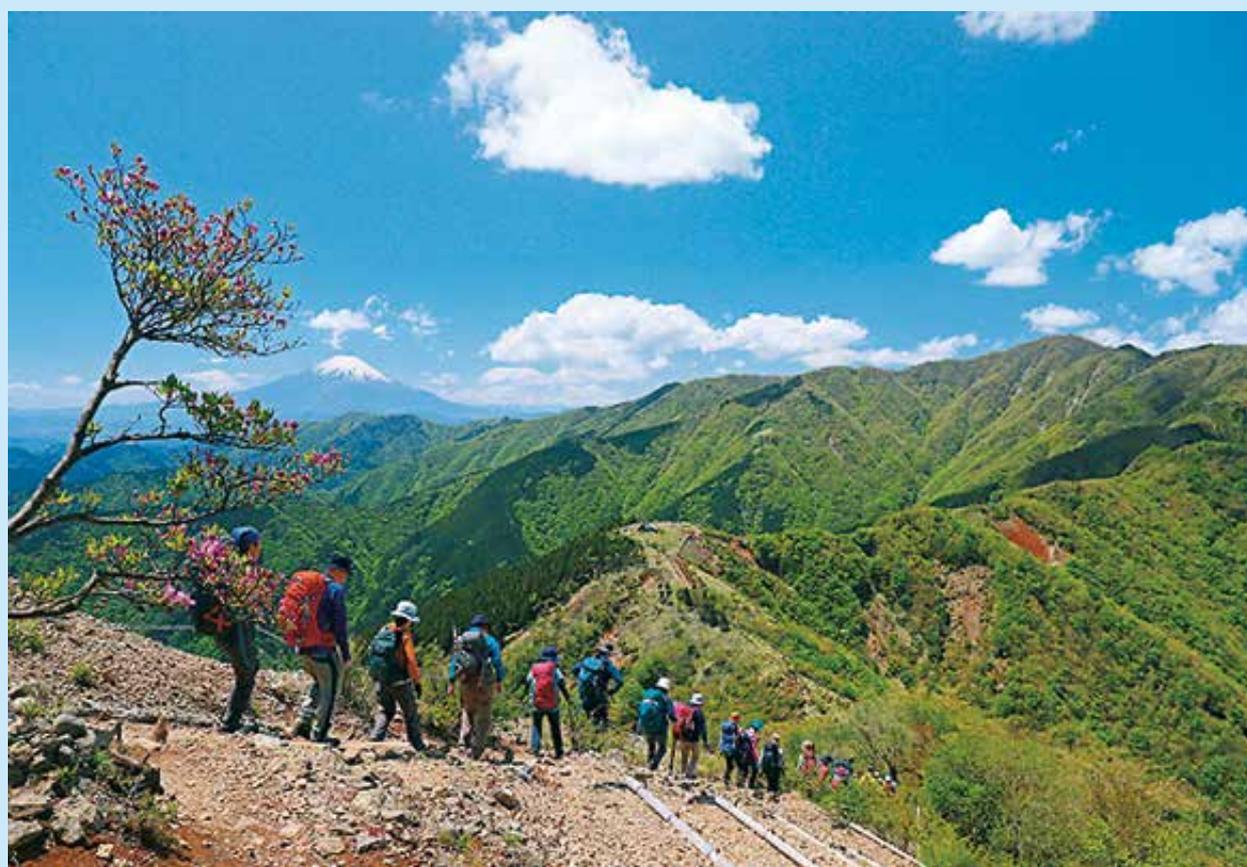


丹沢大山登山環境意識調査

丹沢大山ボランティアネットワーク



調査期間 令和元年6月25日～11月30日

目 次

丹沢大山登山環境意識調査 概要	-----	1
丹沢大山登山環境意識調査 報告		
1 はじめに	-----	2
2 今回の調査のやり方	-----	3
3 アンケート記入者の基本的資料	-----	5
4 登山者の動向について	-----	9
5 安全登山の意識について	-----	13
6 丹沢大山入山の目的と魅力	-----	15
7 登山道等設備の整備状況	-----	17
8 丹沢大山地域行事への参加	-----	18
9 水場利用について	-----	19
10 丹沢大山入山者の環境意識度合い	-----	20
11 自然環境を保全するための必要な取組み	-----	24
12 まとめ	-----	25
丹沢大山 登山環境 意識調査 アンケート用紙	-----	26
グラフで見るアンケート結果		
1 男女別の観点から	-----	28
2 安全の観点から	-----	30



↑写真 滝登り・沢登りも丹沢の魅力（葛葉川上流） （表紙写真・三ノ塔から見た丹沢の山々）

丹沢大山登山環境意識調査 概要

調査目的 丹沢大山地域への入山、登山にかかわる利用の実態、目的、自然環境保護、保全意識などの把握をするため。

調査期間 令和元年6月25日～11月30日

調査方法 調査、アンケート配布活動参加協力団体
NPO法人丹沢自然学校、NPO法人四十八瀬川自然村、
NPO法人伊勢原森林里山研究所、町田グラウス山の会、
丹沢ゴミ調査会、NPO法人北丹沢山岳センター
に協力して頂きました。

アンケート調査活動場所

新松田駅、渋沢駅、秦野駅、西丹沢・秦野ビジターセンター、
ヤビツ峠に於いて各ボランティア団体が不定期に活動を行いました。

アンケート用紙と回収箱設置場所

西丹沢・秦野ビジターセンター、新松田駅前お休み処「つむGO」
大山観光案内所、伊勢原観光案内所、ヤビツ峠公衆トイレ
日向薬師バス停、鍋割山荘、尊仏山荘、みやま山荘、蛭ヶ岳山荘

回収箱等設置協力団体

丹沢ゴミ調査会、NPO法人丹沢自然学校、NPO法人四十八瀬川自然村、
NPO法人伊勢原森林里山研究所、NPO法人北丹沢山岳センター
町田グラウス山の会、等に協力して頂きました。

→写真

アンケート箱設置の様子
新松田駅前お休み処「つむGO」

回収箱は湘南自然観察クラブ
田中さん、NPO法人かながわ
フィールドスタッフクラブの
桶田さんが製作しました。



丹沢大山登山環境意識調査 報告

丹沢・大山ボランティアネットワーク世話人会

1 はじめに

丹沢大山ボランティアネットワーク（以後「丹沢ボラネット」という）は、丹沢への入山者にアンケート調査を実施しました。丹沢大山地域への入山、登山に関わる利用の実態、目的、自然環境保護保全意識などを調べました。

この調査は平成16年度の「丹沢大山総合調査」、平成26年度「丹沢大山登山環境意識調査」以後、丹沢大山地域への入山者の環境意識はどのように変化したかを調べるのが目的です。

平成5年度以後の大規模な「丹沢大山自然環境調査」そして平成16年度からの「丹沢大山総合調査」を経て現在では第3期「丹沢大山自然再生計画」が実施、実行されています。

その結果、全国の先駆けとなる自然公園の素晴らしい復活が見え始め、神奈川県丹沢モデルとなり他県の自然再生事業へ影響を与えています。

「丹沢大山の水場水質調査」と以前行われていた「丹沢主要登山道利用実態調査」と共に丹沢再生の良い資料の積み重ねになれば幸いです。



写真 丹沢自然学校・登山環境意識調査アンケート活動中
場所・西丹沢ビジターセンター

2 今回の調査のやり方

調査期間は令和元年6月26日～11月30日に行いました。

「四十八瀬川自然村」「伊勢原森林里山研究所」「北丹沢山岳センター」
「町田グラウス山の会」「丹沢ゴミ調査会」「丹沢自然学校」の協力により、
登山者へアンケート用紙を配布しました。

配布活動の日時は各団体の都合により行いましたので統一されていません。
入山者が多い土日祝日のアンケート活動が多かったです。

★今回はアンケート記入のお礼としてティッシュペーパーをさし上げました。



↑写真 西丹沢ビジターセンター
ティッシュペーパーと小型回収箱



回収箱は設置場所の広さに合わせました。
小型回収箱は丹沢自然学校が製作しました。

西丹沢と秦野各ビジターセンター、新松田駅前松田町・お休み処「つむGO」、
ヤビツ峠トイレ、大山観光案内所、伊勢原観光案内所、日向薬師バス停、
鍋割山荘、みやま山荘、尊仏山荘、蛭ヶ岳山荘等
に設置したアンケート回収箱で回収する方法で実施しました。(一部直接回収)
また、アンケート用紙は、回収箱を設置した施設へも置いて頂きました。
施設の利用者や宿泊登山者の協力も得られるようにしました。

特に宿泊施設利用登山者は、時間的余裕があるので筆記項目等も詳しく
アンケート記入をして頂きました。丹沢環境保全のために建設的な良い意見を
多く頂いています。

- ★ 今回はインターネットウェブサイトを使い、ボラネットHPから丹沢大山登山経験者もアンケート用紙記入が出来るようにしました。



↑写真 ティッシュペーパーの表紙

デザイン等は丹沢ごみ調査会の栗林さんを中心に作成しました。
丹沢大山ボランティアネットワークの活動趣旨と登山環境意識調査の回答のお礼や回答記入の便利さや調査活動の県民へのPRを目的にしました。
 WEB回答として入山者数に入っています。

調査項目は、平成16年に実施された丹沢大山総合調査（以後「総合調査」）の「登山者の登山環境に関する意識調査」と前回平成26年度に実施された丹沢大山登山環境意識調査を基に「回答者の属性や登山の準備状況、目的」、「施設の整備状況や利用状況」、「自然環境への影響」など

11項目（前回12項目）を設定しました。
前回と回答質問等に少し変化が見られます。回答にも少し影響が見られます。

忙しい登山者のアンケート記入時間を配慮し、内容削減等を話し合い工夫、検討をしました。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 削減した質問項目 | ①使用済みトイレ紙の持ち帰りの周知 |
| | ②今後必要になる登山関連施設の要望 |
| <u>新たに加えた項目</u> | <u>①入山者の登山コース等</u> |
| <u>新たに加えた追加小質問</u> | <u>①水場の利用の目的</u> |

3 アンケート記入者の基本的資料

アンケート用紙回収数、872枚

西丹沢261枚、表丹沢319枚、大山・伊勢原72枚、山小屋130枚、インターネット82枚、その他8枚を回収しました。

丹沢大山地域への入山者の割合%を表す時の基本数とします。

比較の資料 (総合調査と前回調査の基礎数字)

参考文献

丹沢大山総合調査(平成16年度)の回収数(分類)

回収数 1128枚 (男性718人63.7%・女性338人30.0%
・不明72人6.3%)

前回調査 平成26年丹沢大山登山環境意識調査の回収数(分類)

回収数 739枚 内 一般登山者643人(男400人女233人
記載なし10人) ボラネット団体96人

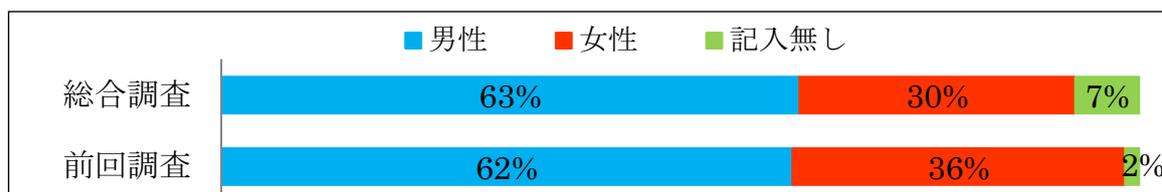
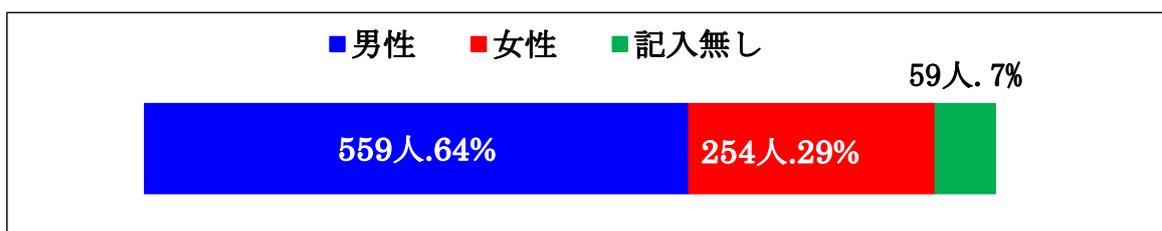
資料の偏りを防ぐためボラネット96枚(参考資料とする)を
除きました。

一般登山者643人(枚)を基準にします。



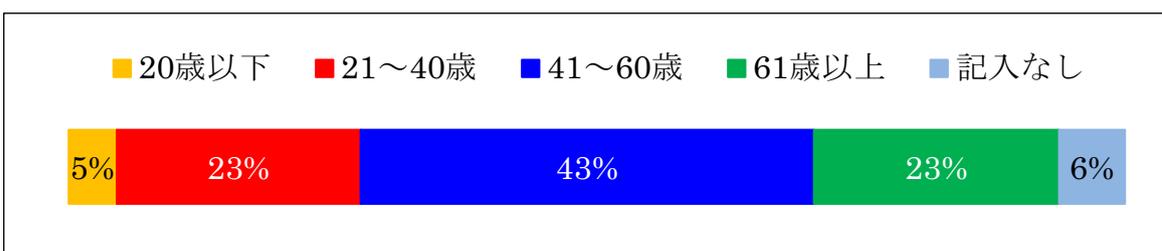
↑写真 回収箱設置場所・ヤビツ峠登山口 登山者で賑わう

★入山者(872人)の男女割合はどうなっていますか？



今回は男女比が総合調査時に戻りました。ほぼ女性は30%とみて良いと思えますが、変化傾向は次回調査を待ちたいと思います。

★年齢別割合はどうなっていますか？



年齢別では、41～60歳が43% (377人)、61歳以上23% (204人) 21～40歳23% (203人)、となっています。

★今回までの三回の調査を比較してみましょう。

今回調査 の区分	今回調査 令和元年	前回と総合 調査時区分	平成26年度調査		※総合調査時 (一般登山者)
			全体	一般登山者のみ	
	—	70代	8%	5.6%	-
61歳以上	23%	60代	24%	19.0%	31.4%
	—	50代	16%	18.4%	30.3%
41歳以上	43%	40代	18%	20.7%	12.1%
	—	30代	14%	15.9%	8.3%
21歳代以上	23%	20代	10%	10.9%	5.3%
20歳以下	5%	10代以下	4%	4.0%	-
未記入	6% 未記入	未記入		5.6%	

今回調査は年齢区分けが前回調査、総合時調査と異なり厳密な比較は難しいです。反省として基本的属性の項目は変化させない事が良いと思えます。

60歳以上の高齢層では前回調査との変化は少ないが、総合調査時と比較し減少している傾向は見られます。又反対に低年齢層では前回との変化は少ないが総合調査との比較では増加が推測される。赤字等から皆様も検討して下さい。世代間の数値の差は確実に小さくなっていると思える。

この20年間で割合としては、およそ高齢者が減り若者の入山登山者が、徐々に増えてきた事が推測できます。

およそ60代以上の割合が減少しているのは、定年延長、再雇用制度等により、働く高齢者の増加も関係をしていると思えます。

→写真

登山者で賑わう塔ノ岳山頂の様子



働き方の改革で休日や余暇が増え、その結果として登山ブームで丹沢地域入山者が増加し、

その上若者の登山者数が増えたので、相対的割合は減少していると思えます。ただ絶対数は大きくは減少してないと推定されます。社会構造との関係も含め今後の裏付け調査が待たれます。

★職業別割合はどうなっていますか？

今回 合計829人



職業	今回調査 令和元年	平成26年度調査		※総合調査時 (一般登山者)
		全体	一般登山者のみ	
会社員	478人 58%	46%	51.8%	31.6%
学生	55人 7%	6%	6.5%	4.6%
公務員	57人 7%	6%	6.4%	7.8%
自営業	41人 5%	5%	5.6%	8.1%
専業主婦(夫)	41人 5%	10%	7.0%	15.0%
その他・無職	98人 12%	24%	19.9%	20.8%
記入無し	59人 7%			

職業では、会社員 58% (478 人) と半数以上を占めており、
特徴は 31.6%→51.8%→58%のように調査の度に増加しています。
 働き方の改革と社会の失業率が低下しているのが原因かと思われます。
 学生 7% (55 人)、公務員 7% (57 人)、自営業 5% (41 人)、
 その他・無職 12% (98 人) となっています。

専業主婦 (夫) 15%→7%→5% (41 人) は、総合調査時と比較して3分の1に減少しており、逆に働く女性の急激な増加がアンケート上でもわかります。

★丹沢入山者の多い県はどこだろうか？

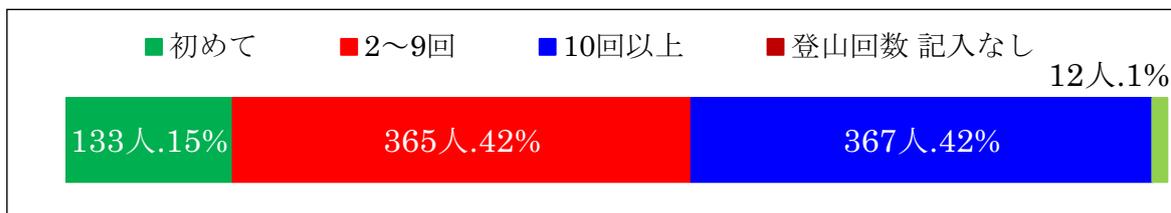


神奈川県 前回 59%→今回 57% 東京都前回 24%→今回 27%
神奈川県内からと東京都で 84%です。前回 83%で、ほぼ同じです。
 その他は静岡県 9 人、兵庫県 4 人、岩手県広島県各 3 人、等です。

総合調査時の丹沢地域年間入山者は約 313,000 人と推定されました。
 丹沢地域は広く入山場所も多くあるので入山者数調査は大変と思いますが
 次の総合調査時には、現在どのくらいの年間入山者があるか知りたいものです。

秦野市の調査では、ヤビツ峠訪問者は令和元年実績で 47 万 2000 人です。
丹沢全体ではどのくらいの入山者になるのでしょうか？

質問 1 これまでの登山回数は？



丹沢大山地域での登山回数は、「初めて」 15% (18%)、「2~9 回」 42% (45%)、「10 回以上」 42% (36%) です。 () は前回調査値

丹沢は東京の高尾山などと同様に、大都会に近く交通の便も良く、
 その上初心者から上級者までも引きつけるコース等が用意されています。
 変化に富んだ魅力的な山塊と思われる事がわかります。
そのような理由で入山者のリピート率は大変に高い山域です。

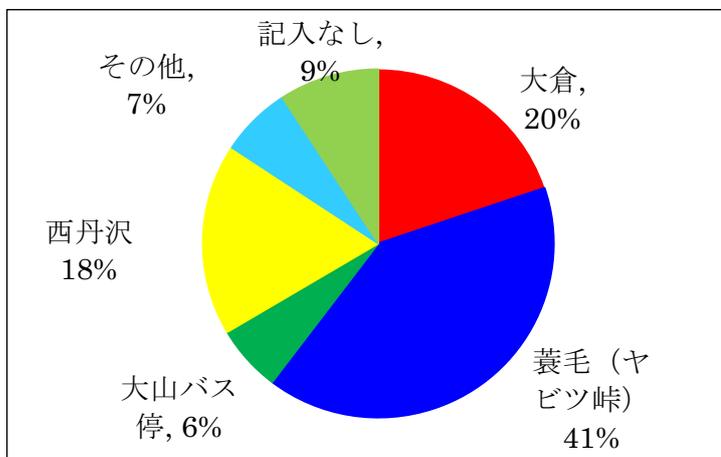
4 登山者の動向について

質問2 今回の登山コースを教えてください。(今回新たに加わった項目)

★どこから入山しましたか？

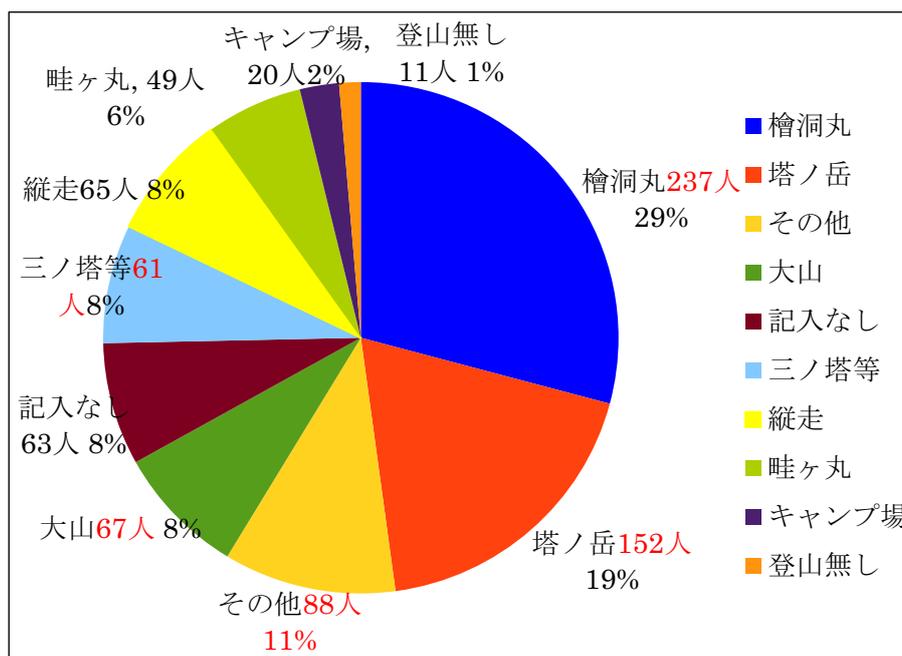
今回調査は丹沢地域全体の様子でなく、主に表丹沢と西丹沢入山者の動向を調査しました。

残念ながら北丹沢、東丹沢（大山より東）地域は資料が少ないです。



- ① 表丹沢、(ヤビツ峠) 335名 41% ニノ塔、三ノ塔登山や表尾根縦走の出発点 そして大山の秦野市側からの登山口になっています。
- ② 大倉 164名 20%、塔ノ岳、鍋割山等表丹沢登山の拠点です。また県立秦野戸川公園や周辺キャンプ場への目的者も多いです。
- ③ 西丹沢 147名 18%、キャンプや登山者の入山が多い場所です。
- ④ 大山バス停 51名 6%、大山観光と参拝登山が多いです。
- ⑤ その他に谷峨、新松田、寄、塩水橋、宮ヶ瀬、日向薬師、青根、菩提峠からの入山がありました。

★今日は何処へ行きますか？



「今日はどこへ行きますか？」と尋ねると山では檜洞丸が多く 237 人次に塔ノ岳 152 人→大山 67 人→三ノ塔等 61 人と続いています。
丹沢を知ってる方なら「何かの間違いかな？」と思われるかも知れません。

西丹沢地域への入山回答者数が多い関係で、この登山者等の人数や割合は西丹沢への入山者の中で、檜洞丸登山者が多いと言うことです。

次に畦ヶ丸が続いています。

各地域での調査人数が異なります。
塔ノ岳、大山との比較ではないです。

→写真

大山・山頂まで行列が出来る日もある



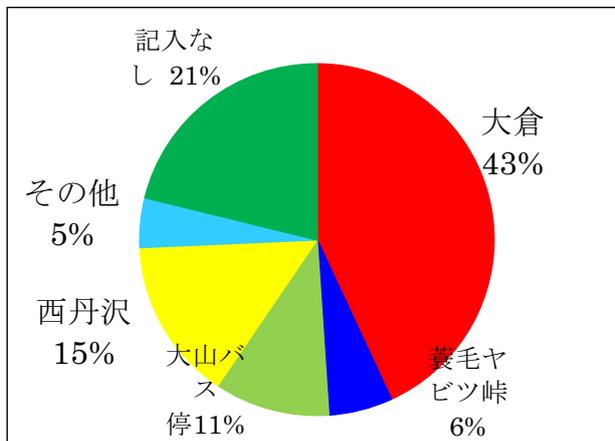
★その他 88 人(11%)の内容はいろいろありました。

西丹沢では下棚、本棚、モロクボの滝 8 人、大室山、高松山、権現山、不老山等、沢登りもありました。

表丹沢では鍋割山 10 人 丹沢山、蛭ヶ岳 4 人、山の家等があります。

WEB・山小屋の宿泊者では縦走者は丹沢山 27 人、蛭ヶ岳 12 人、鍋割山 10 人となり縦走者が一番多いです。

★下山場所はどちらですか？



	入山	下山
大山バス停	51 人	90 人
大倉	164 人	369 人
西丹沢	147 人	127 人
養毛ヤビツ峠	335 人	50 人
記入無し	76 人	181 人
その他	54 人	39 人

特徴として下山場所は大倉、大山バス停が増えています。反対にヤビツ峠からの下山者が極端に減っています。

秦野駅からヤビツ峠へそして、三ノ塔、塔ノ岳、大山と縦走登山をし、大倉や大山バス停への下山コースを取る方々が多いです。

西丹沢では、縦走者以外は西丹沢の入山、下山が大部分同じです。

下山者の記入無し者の増加が目立ちます。

登山者以外のキャンプ等の人には下山場所を記入しにくいと思われる。

★どのような縦走コースとられたか調べました。

縦走者の動向 ①登山の目的項目での回答では縦走者は119人です。

②登山コース項目での、縦走者は65人です。

③その他の中に52名の縦走者が含まれていました。

合計117名(②+③)の縦走者がいました。

- ・西丹沢ビジターセンター13人・新松田駅入山者9人、合計で22人です。

西丹沢→大室山、西丹沢→畦ヶ丸

西丹沢→檜洞丸→蛭ヶ岳→丹沢山→大倉

西丹沢→塔ノ岳→大倉尾根(2人)(難コース)

- ・蛭ヶ岳山荘宿泊者18人 みやま山荘宿泊者48人 WEB入力者8人

その他の中にも縦走者が入っていました。

- ・秦野ビジターセンター 大倉入山者の集計は3人です。

大倉→塔ノ岳→丹沢山→塔ノ岳→大倉

大倉→鍋割山→金冷し→塔ノ岳→大倉

大倉→塔ノ岳→表尾根→蓑毛

- ・秦野駅(蓑毛)入山者の集計は19人です。

表尾根→丹沢山→檜洞丸→西丹沢(2人) 表尾根→丹沢山→塔ノ岳→大倉

表尾根→塔ノ岳→丹沢山→塔ノ岳→大倉(6名)(難コース)

蓑毛→大山→日向薬師の他、いろいろなコースがありました。

→写真

鍋割山稜から見た塔ノ岳

丹沢山の縦走コース

意外と高低差が大きい



★それでは山小屋宿泊者の縦走コースは？

- ・尊仏山荘での縦走者の動向は？ 本当に多方面の縦走です。

蓑毛→塔ノ岳→蛭ヶ岳→丹沢山→大倉(2名)

蓑毛→塔ノ岳→大倉

大倉→塔ノ岳→丹沢山→塔ノ岳→大倉（2名）

その他に、いろいろな縦走コースに行く登山者が多いです。

大倉→塔ノ岳→丹沢山→塔ノ岳→鍋割山→大倉の難コースが見られます。

(注) スタンプラリーには効率的コースですが体力が必要なコースです。

・ **蛭ヶ岳山荘・WEBの縦走者の動向（難コースが入っています）**

青根→蛭ヶ岳→青根 青根→蛭ヶ岳→丹沢山→大倉

西丹沢→檜洞丸→蛭ヶ岳→ヤビツ峠 大倉→蛭ヶ岳→大倉（2人）等

その他、色々なコースの縦走者がいました。

★**縦走で気がついた事**

丹沢山塊はいろいろな変化を体験できる縦走コースが多いことです。

登山道が整備され、安全なコースをつくり楽しむことができます。

・ **表丹沢の縦走コース**

表丹沢では、表尾根⇔塔ノ岳⇔大倉・蓑毛へ下山が一般登山者には多いです。

大倉⇔鍋割山⇔塔ノ岳⇔大倉尾根コースも見受けられます。

このコースに最近では塔ノ岳⇔丹沢山を加える登山者も増えています。

(注) 丹沢・大山やまなみ登頂スタンプラリーの影響が有るかもしれません。

塔ノ岳⇔丹沢山は地図では簡単に見えても高低があり厳しいコースです。

体力に応じたコースづくりを第一に考えてください。

(注) 丹沢大山やまなみ登頂スタンプラリー（主催 秦野市観光協会）

縦走を楽しみながらマイペースでスタンプを集めてください。

→写真

主稜縦走コース

丹沢の中心部 蛭ヶ岳→

不動ノ峰→丹沢山と連なる



5 安全登山の意識について

★登山者の安全登山の意識について調査をしました。

質問3 次の物をお持ちですか？（前回から変更項目あり）

登山装備、準備と丹沢登山経験回数の関係を調べました。

登山の準備装備のうち運動靴を除き、経験者は所持している割合が高く、地図はもとよりヘッドランプの予備電池まで持っています。

何回もの登山でのいろいろな経験から安全について学び、装備が充実して行く様子が見取れます。

	初めて	2～9回	10回以上	合計
登山靴	66名	211名	257名	534名 62%
運動靴	70名	175名	146名	391名 45%
紙地図	54名	140名	203名	397名 46%
アナログのコンパス	46名	111名	200名	357名 41%
位置情報アプリ	51名	176名	208名	435名 50%
ヘッドランプと電池	84名	220名	275名	579名 67%
記入無し	35名	85名	87名	207名 24%
合計	406名	1118名	1376名	2900名

ヘッドランプと予備電池は全体の装備準備の中で最高67% (66%)に達しています。

これは喜ばしいことであり前回より、わずかだが増加しています。登山者にとっては何が起こるか分からないですから絶対の必需品です。

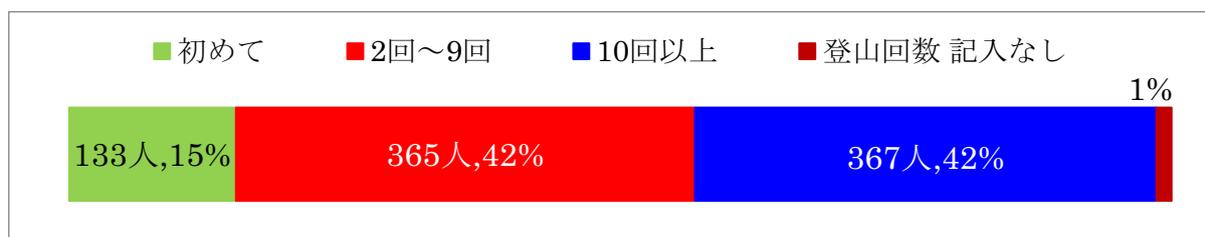
・今回は今までにない位置情報アプリと運動靴に関して調べました。

紙地図やアナログコンパスに取って代わる勢いで登山者に普及しています。霧の中でも雨天でも現在地と地形が分かり、小さく軽い装備で便利なのです。しかしながら紙地図やコンパスは今でも大切な登山必需品です。

登山者にとっては、安全で使いやすく小さく軽い、高品質な登山用品が普及してきたことは喜ばしいことです。

靴は登山靴が大部分ですが、運動靴が初心者には普通に見られます。

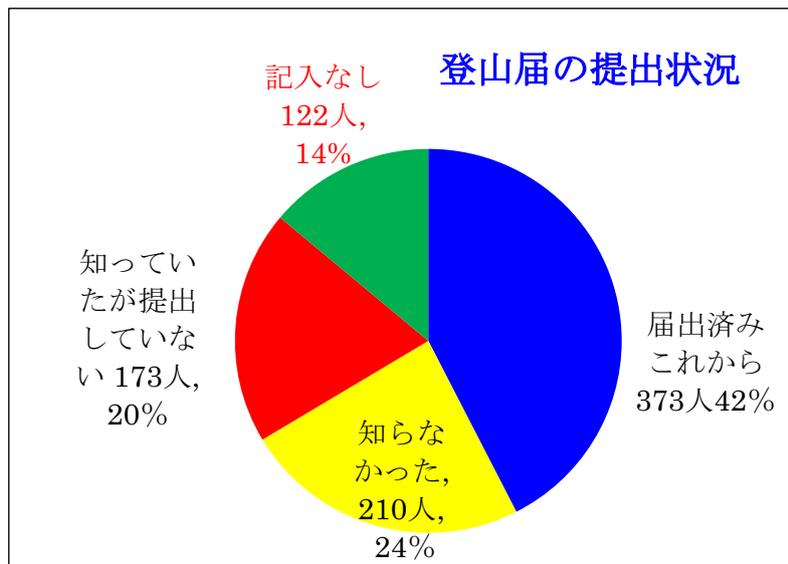
★登山回数別に登山者の割合を調べました。



割合としてみると 15%（133 人）の人が新しい丹沢登山者とみられます。

この人達への丹沢入山者心構え等の啓発を、毎年持続的に続けることが大切かと思われます。もちろんあらゆる機会を捉えて全ての人へ丹沢の環境等について理解をして頂くことも大事です。

質問 4 登山届は出しましたか？ 全員に聞きました。



未記入者 122 人、14% を表から除き、提出者を高めに割合を計算すると登山届の提出状況は、「届出済・これから提出」50% になります。

前回と比較すると、この計算でも (69%) → 50% と大変に落ち込んでいます。基本的な安全意識の低下が見られます。

「知っているが未提出」23%、はどのように考えますか！

登山届の周知率は (92%) → 73% と落ちこみ「知らなかった」(8%) → 27% と増加しています。この変化もどのように考えれば良いのでしょうか？

() 前回調査

★登山回数と登山届提出の関係も調べました。

・回数別周知状況も見てみましょう。(表 次ページ)

10 回以上の登山者は 58% で提出者が多いです。

周知率の落ち込みは初心者が原因と思われがちですがどうだろうか？

登山届提出を知らない人が回数順に 27% → 32% → 22% であり、10 回以上の登山者もなんと 71 名 22% の人が知らなく、全体平均で 27% です。

私達は真剣に対策を考えたいと思います。

解決策として登山口での呼びかけが考えられます。登山者の多い西丹沢は比較的登山口が限定されているのでビジターセンター等の呼びかけは有効と思われます。

	初めての 登山者	登山回数 2～9回	登山回数 10回以上	合計
届出済・もしくは これから提出	50名 46%	139名 44%	184名 58%	373名 50%
登山届を知っていたが 提出していない	29名 27%	77名 24%	65名 20%	171名 23%
登山届について 知らなかった	29名 27%	101名 32%	71名 22%	201名 27%
登山者合計	108名	317名	320名	745名

表丹沢や東丹沢では登山口が分散され、その上キャンプの人や、観光、参拝客が多いので呼びかけが困難な面が多いです。呼びかけも大切ですが後追いの活動であります。

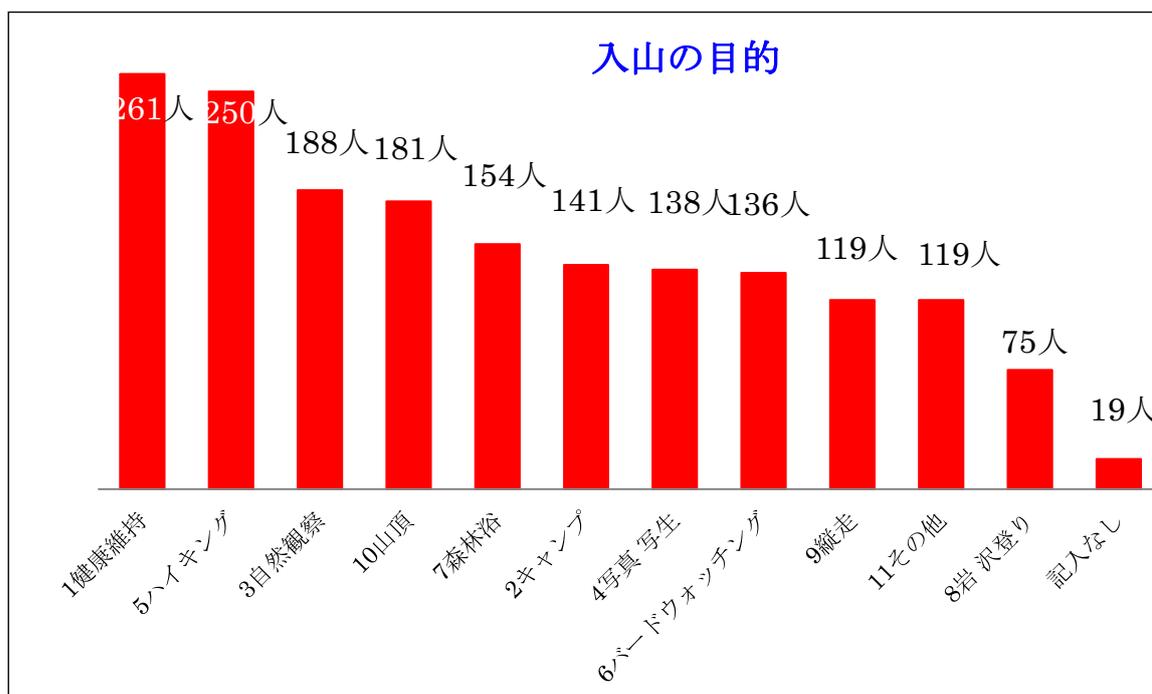
ボラネットや公的な機関が連携して、観察会等の行事を通して直接的、間接的に数多い機会での啓発活動が望めます。

丹沢における遭難事故、死亡事故例などの解りやすい感情に訴える資料をつくり新聞や公報等で発表し、登山者の安全に対する意識向上の対策がのぞまれます。

6 丹沢大山入山の目的と魅力

質問5 丹沢入山の目的はなんですか？

登山の目的を11項目の中から複数回答可能として選んでもらいました。



「健康維持増進」261人、30% (46%) が最も多いです。()内は前回「ハイキング」250人29% (32%)、「自然観察」188人、22% (36%)「とにかく山頂を目指す」181人21% (21%)「森林浴」154人、18% (21%)「キャンプ」141人16% (項目無し)、縦走119人14% (21%) となりました。
丹沢大山の自然を、いっぱい吸収する事で心と体の再生源となっています。

前回調査時と比較して、「健康維持増進」16ポイントと大きく減少し「縦走」を目的とする人も7ポイント減少しています。
今回の調査では多くの項目で減少しているのが特徴です。



原因として次の★項目11と関係しますが、交通の便が良くなり、自然を堪能する健康志向や手軽な登山者等、多様な入山者の増加と関係が有ると思われます。

地層化石の観察 (夏休み親子自然探険隊)

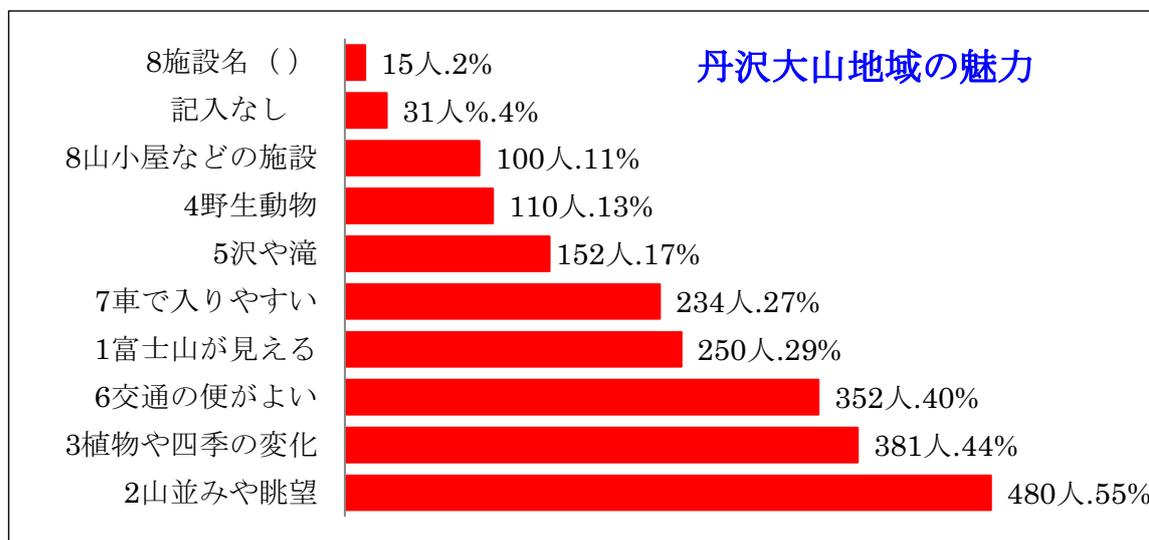
★項目11その他()は記述の回答で以下の通りです。

- ・石ひろい ・家族、友人との交流 ・沢登り ・鍋割山うどん食べ ・温泉
- ・スタンプラリー ・ランニング、トレラン ・夜空、星空観察 ・登山道巡視
- ・採集部クラブ活動 ・部活動 ・アルバイト、仕事 ・お札、御朱印、散歩等

質問6 丹沢大山地域の魅力は何ですか？

★丹沢大山の魅力を10項目の中から複数回答可能として選んでもらう形式

- ・一位 「丹沢の山並みや眺望」480人、55% (53%) ()内は前回の割合
- ・「植物など四季のうつろい」381人、44% (31%)、増
- ・「交通の便が良い」352人40% (46%) 減、
- ・「車で入りやすい」234人、27% (9.3%) 増という結果です。



「植物など四季」や「車」が増え「富士山」(45%→29%)が減少しています。
 「丹沢の山並み」は総合調査時、前回調査同様に割合が多いです。
 「植物や四季」が大きく増加しているのは、自然や心の健康指向です。
 丹沢大山は電車等交通機関の利便性が高く、土日祭日には臨時バスが
 増発され登山口まで容易です。車でも登山口まで入りやすいです。
丹沢大山は環境変化に富み,多方面の人を引きつける魅力的な山地です。

7 登山道等設備の整備状況

質問7 登山道など施設の整備状況はどうですか？



登山道等施設の整備状況については、「良好」40%、(39%)「普通」38%、(27%)
「もっと整備が必要」13% (5%)です。

整備状況が整っているので、反対に悪い所が目立つかと思われます。
 大勢が利用する登山道は案内板、木道、階段、ロープ、水切りなど整備
 が整い感謝の声が上がっています。

★入山者の主な意見を掲載します。

- ・ 先日行ったら塔ノ岳から丹沢山への木道を修繕されていた。本当に感謝です。
- ・ 台風の後でもすぐに復旧されるのが素晴らしいと思います。
- ・ 整備が行き届いている分、軽装で困難に直面している登山者が多い気がする。
- ・ 良く整備して頂いて感謝。階段の段差が高過ぎる所があり女性子供には苦しい。
- ・ オーバーユースの山域の登山道が細過ぎると思います。
- ・ 古い階段。歩幅が高すぎるの
で改良して。トイレ増望みます。
- ・ 道が掘れて、えぐれてしまっている
所は何とかしたい
- ・ 青ヶ岳山荘～臼ヶ岳の間の整備を
してほしいです。

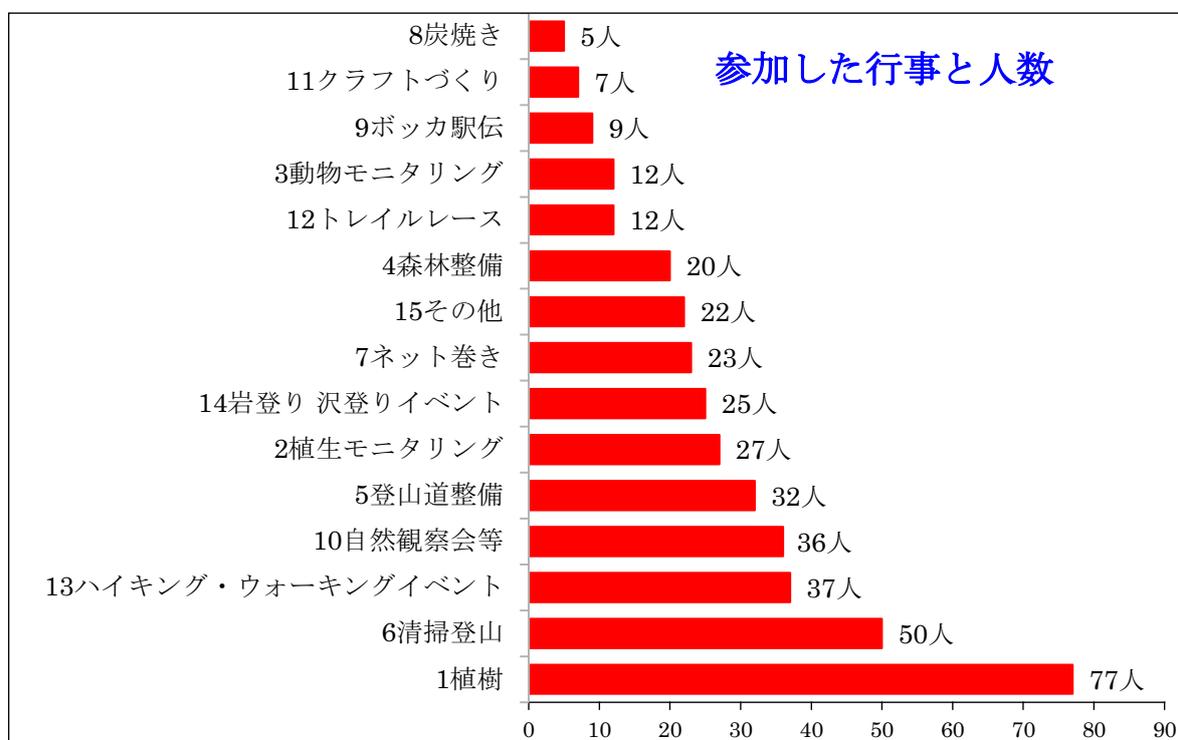
→写真

三ノ塔休憩所 平成31年4月1日供用開始



8 丹沢大山地域行事への参加

質問8 丹登山沢大山地域で行事へ参加したことがありますか？



★丹沢大山地域で実施している行事等への参加状況を14項目の中から複数回答可能として選んでもらう形式としました。

前回調査は一位 1植樹、二位 13ハイキング等、三位 6清掃登山でした。
今回調査も同じような傾向です。

・その他いろいろな行事があります。

山マラソン、禊体験、節分祭ほか多数、クリーンキャンペーン、鹿調査トレイルレース、山開き式、大山登山マラソン、秦野丹沢まつり山開き式、ロゲイニング、学生時代に森林調査、ブナ調査、アドベンチャーレース、石あげ
丹沢地域への多くの入山者はイベントとしての登山ではなく
自分の目的、楽しみを持って入山をしています。

今後の丹沢の地域行事では、次世代へ丹沢遺産を引き継ぐため、丹沢の再生と観光を連携した環境重視の行事が望まれます。

登山者の登山動向を調べるにあたっては、キャンプや参拝者等を除き、登山者のみへの質問が分かり易く、記入無しが減ると思われます。
反省材料としては、次の調査では発問の工夫が必要かなと思われます。

9 水場利用について

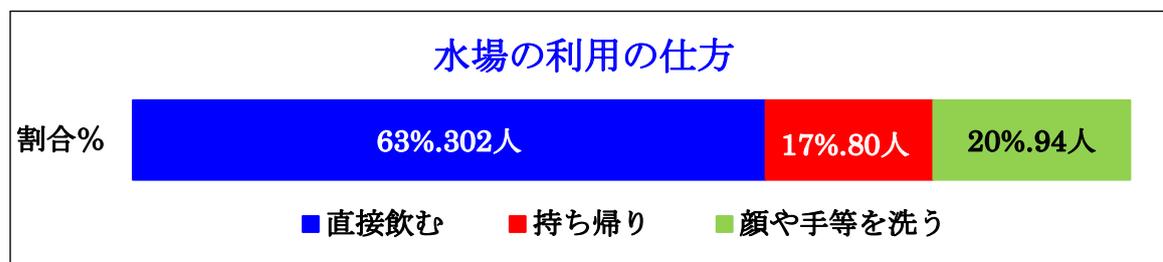
質問9 丹沢大山地域の水場を利用したことがありますか？



水場の利用状況は「利用したことがある」439人、52% (21%)
 「ない」317人、37% (37%)であった。()内は前回調査
 前回の調査より増加しています。

意外と利用者の割合は少ないです。季節や天気等も関係すると思います。

★続けて利用者に、どのような利用の目的かをたずねました。



今回のアンケートでは、利用者の中で水場をどのように利用しているか
 新たに問いを加えました。

水場で湧水等を直接飲む人が302人、半数以上63%の人が飲むと
 答えています。

「多いと思えるか」「少ないと思えるか」どのような見方をすれば良いだろうか？

護摩屋敷の水、葛葉の泉、竜神の泉等はよく利用されています。

車でも行けるので登山者ばかりなく
 多方面の方に利用されています。夏など
 シーズン中は、いつも賑わっていて
 行列が出来ます。



★登山者がその他利用した水場

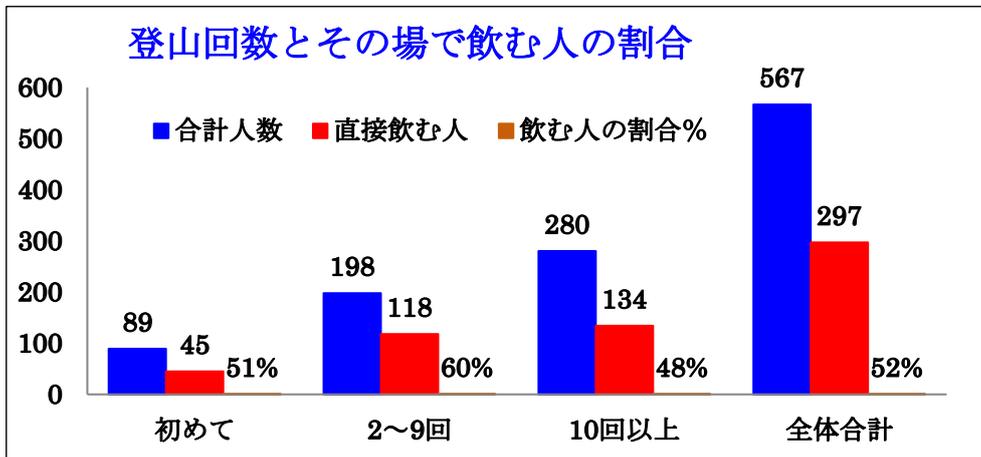
塔ノ岳直下の水場（不動の水）、
 白石峠の下の水場、日向林道起点水場、
 蛭ヶ岳東部水場、春嶽湧水、西丹沢県民の森、↑写真 護摩屋敷の水（ヤビツ峠北側）
 仲ノ沢法面水場等を利用しています。大山の下社、大山の弘法の水、
 弘法山井戸、弘法の清水等は一般観光者も多いです。

水場の水質については丹沢大山ボラネットが、毎年5月に22箇所継続的に

水質調査を行っています。ボラネット瓦版や自然環境保全センター報告に水質調査報告が載っています。体験活動等の時に利用をしてください。

水場の利用は、基本的には大腸菌や一般細菌の有無に関係なく「煮沸」しての利用が原則です。

★登山回数と水場利用の関係を見てみましょう。



前回の報告書では初心者は利用が少なく（8.4%）、また女性も男性と比べると利用に大きな差が有り、少ないと報告されていました。

今回は登山回数とも男女別でも、あまり極端な関係はありませんでした。水場で水を飲む行為は2～9回の登山者は、198人中118人、60%が多いです。丹沢に慣れ始め、水に対して警戒心が薄れたのかも知れませんが回数との関係はあまり見られません。

沢水を飲む飲まないと登山回数、安全意識は有意な相関関係が見えません。

10 丹沢大山入山者の環境意識度合い

質問10 登山者の行動に対する自然環境への影響度合いをたずねました。

★登山者の環境負荷意識について

今回調査では、前回調査からトレイルレースなど一項目を減らしました。環境意識度合いについてはH16年、H26年の調査と比較してみます。

前2回と比較して見て、前回は「非常にある」が極端に増えていたが、今回は全ての項目で前回より「非常にある」が極端に減少しています。

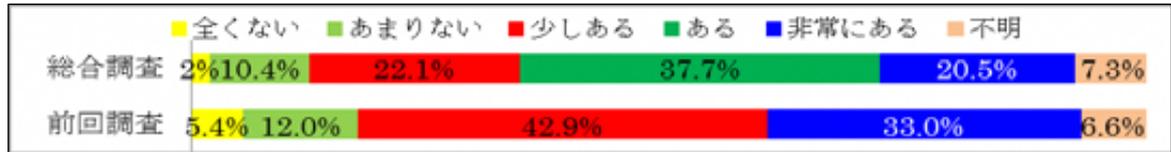
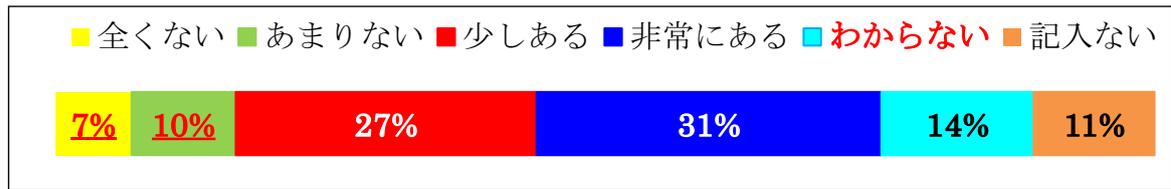
また「非常にある」+「ある」+「少しはある」の和も減少しています。

どのように解釈が出来るのでしょうか？

このような結果が出た原因を見つけ、私達ボラネットを含めた環境保護保全啓発活動の振り返り資料にしたいです。

前回・今回調査の回答項目には濃い緑「ある」が無く、今回は「わからない」が追加されています。グラフを比較するときに考慮し読み取りを御願います。

① 自家用車乗り入れ



環境への影響が前回よりは「非常にある」が20.5%→33.0%→31%と減少している。「非常にある」に（「ある」＋「少しある」）を加え三回の調査を比較しても81%→76%→58%と今回調査では減少しています。

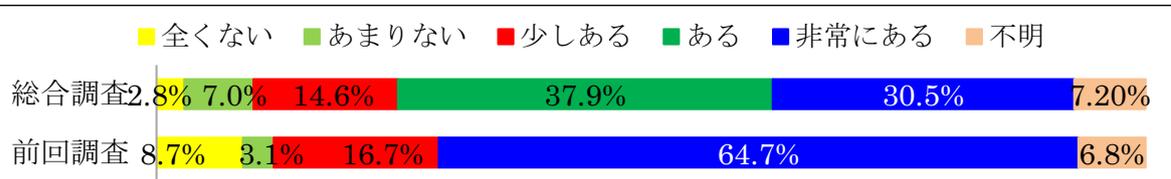
自家用車の入山は環境に影響あると思う丹沢入山者が減っています。
丹沢の自然林の枯渇現象が大気汚染との関係があるのに残念な減少です。
低燃費のハイブリッド自動車が増えたのが原因でしょうか？

自然林の立ち枯れや枯死と大気汚染との関係を知らない入山者が増えた可能性もあり様々な原因が考えられます。反面、日本でも自家用車乗り入れ禁止、バス等公共交通機関利用の地域があります。

このような他地域での経験を生かしたいものです。そして環境教育などを通しての啓発を進めていきたいものです。

自家用車の乗り入れについて、自然環境への影響調査でも、総合調査時と比較して影響が「全くない＋あまりない」と回答している割合が増加していることから、車の利用者も増加している傾向がわかります。12.4%→17%

② 野生動物へのエサやり



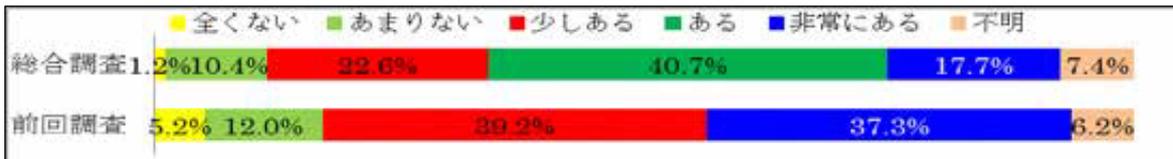
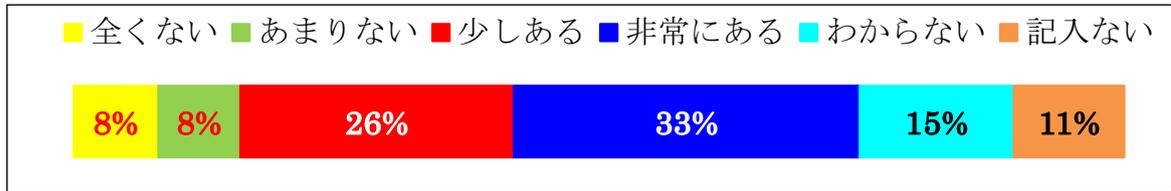
前回よりは「非常にある」は30.5%→64.7%→45%と減りました。
同様に「ある」＋「少しある」を加えると83%→78%→54%と減少しました。
エサやり行為に対しては、野良猫や犬へのエサやりと同じように環境に対する影響が考えられない人が多くなっていると思います。

餌を与えることにより野性動物は繁殖し、人里に近づき農作物等に対して

影響を与えるようになり、丹沢ではシカ、サル、イノシシ等が目立っています。

丹沢に於いては今後「エサやり」問題以外にも特定外来種を含むツキノワグマ等の哺乳類、鳥類等との関係や距離感も大切になってきています。野性動物との共存と言うより、活動地域空間を分けた共存が好ましいです。

③ 野外での排泄（トイレ）



「非常にある」は17.7%→37.3%→33%と前回より減りました。

「非常にある」+「ある」+「少しある」は81%→77%→59%と減りました。

ごみのポイ捨てと違い「環境に影響ない」と思う人が増えています。

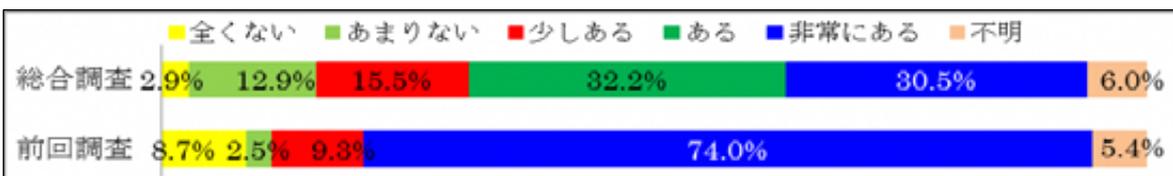
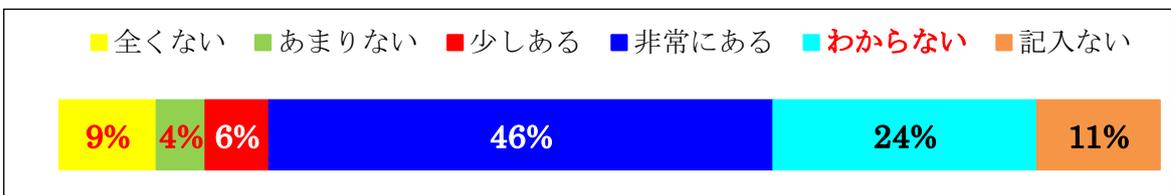
自然のサイクルの一部と思う人が多いのか、それとも考えない人が多いのか？

★今回はアンケート調査項目にないが、使用済みのトイレ紙の持ち帰りについて

山小屋の協力でビニール袋が用意されている所もありますが、持ち帰りです。丹沢には整備された数多くのバイオトイレが設置されています。

- 山岳トイレ使用3ルールを守ってください。
- 1 便器内に大小便以外のモノを投入しない。
 - 2 水流しは1回のみ。
 - 3 トイレチップ（利用料）100円を用意する。

④ ゴミのポイ捨て

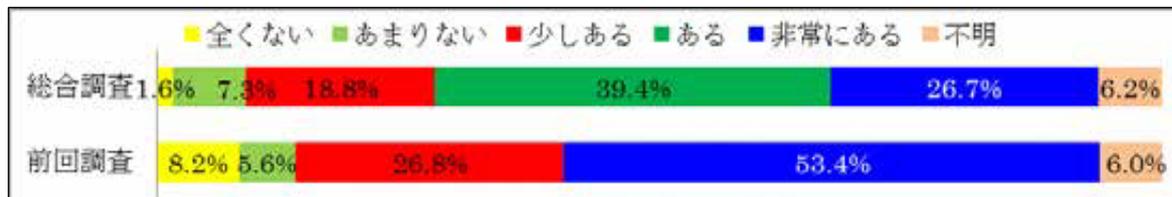
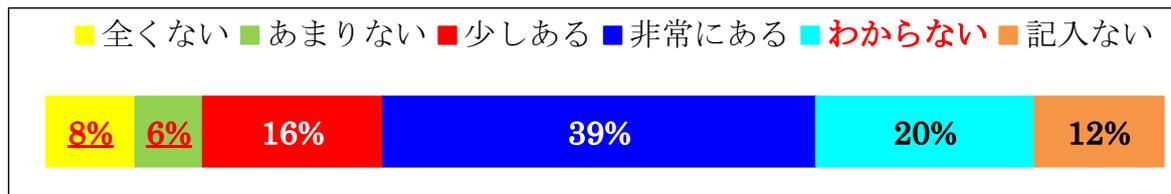


「非常にある」は30.5%→74.0%→46%と減りました。

「非常にある」+「ある」+「少しある」は78%→83%→52%と減りました。
全国的には富士山などの世界遺産指定を通じて、ごみ問題などにより指定されなかった経過があり、ごみ問題に対する環境意識が向上して来ました。

最近はレジ袋やマイクロプラスチックごみが話題に上がりました。
これらのごみ問題が周知され丹沢入山者へも大きく影響がある事を期待します。
環境啓発活動により「影響有る」が90%を超えることが望めます。

⑤ 登山道を外れて歩く



「非常にある」は26.7%→53.4%→39%と減りました。

「非常にある」+「ある」+「少しある」は85%→80%→55%と減りました。

「影響がない」は8.9%→13.8%→14%と変化をし、誤差の範囲の小さい変化です。
登山道が整備され、周囲の植物が豊かに回復しているので、環境保護事業への理解が深まり環境意識向上へ、つながっていると思えます。

環境意識後退の数字は「**5わからない**」選択肢を付け加え4項目→5項目へ増加したのが一因とも考えられます。反対回答の「環境への影響はない」は増減幅が小さい事（誤差の範囲）から推測できます。

またいろいろ複雑な環境問題の発生により環境意識が向上し、反対に「わからない」の増加をもたらしている、との見方もあります。

★項目 登山の際、自然環境に気を付けていることがありますか。(文章記入)

- ・登山道を外れない様に気を付けている。
広がって駄目にならないよう真ん中歩く。
- ・木道のある箇所は必ず木道を歩く。
大倉尾根では水切りを掃除する。
- ・ゴミを落とさない、アメ等の小さなゴミが落ちないように、見つけたら拾う。
- ・残飯の持ち帰りの徹底、携帯トイレ持参
→写真 仲ノ沢法面水場清掃が行き届いています



1 1 自然環境を保全するための必要な取り組み

質問 1 1 丹沢大山の自然環境を保全するためには、どのような取り組みが必要ですか？（記述回答）

いろいろな環境への取り組みで正反対の意見も多く見られました。

★自然のままが良い。整備は必要、防災環境保全のためにして欲しい。

- ・人が多すぎであるし、山の崩れも多いため様々なレベルの人が楽しめるよう整備が行き届いていますが、なるべく自然のままが良い。
- ・木道がよく行き届き、整備状況が良く初心者が多い反面、悪い所は渋滞する。
- ・街の公園化する必要は無く整備された山は好きではないが整備は必要と思う。

★登山マナーやルールを普及するため啓発活動をおこなう。

- ・登山初心者への啓蒙、上り優先等々、マナーが悪いというか知らない。
- ・トイレの紙の始末、木道を歩行しない、携帯トイレを配るなども良い。
- ・不心得者も多く登ると思うので、山でのマナーを伝え周知していく。

★入山料、入山規制や自家用車の乗入れ規制、オーバーユース対策等について

- ・入山料（入山料や駐車場料金、公衆トイレ利用料の徴収）の検討してみる。
- ・登山口で一人入山料 1000 円を頂く。オーバーユース対策、自家用車の規制、登山者の分散化も必要。 →写真

**50 年前 蛭ヶ岳山頂付近には林冠ギャップ
(草地) もあったが、豊かな自然があった。**

★イベント等に対する意見。

厳しい意見が多いです。主催者等は事業趣旨を知らせ、お互いに理解し合う事が大切です。

- ・トレランを禁止するべきである、歩道草地を大きく傷つけている。歩く人に対しても脅威を感じさせる。

観光ツアー、イベント等と自然保護、保全は対立するのではなく共存の道を捜したいと思う。



★水源環境保全税等について

水源環境保全税について入山者には、まだまだ周知不十分と思えます。

トイレ整備など環境整備に使われていることのPRも大切です。

入山料を丹沢利用者から頂くと言うのも、一つの方法であると考えます。

募金や入山料を徴収することは、必要な整備に充てる事ばかりでなく「大勢の入山者に対し持続的に環境意識向上も図られる」との意見も多く見られました。

1 2 まとめ

丹沢大山登山環境意識調査は令和元年度に丹沢大山ボランティアネットワーク参加団体の協力で実施されました。そして令和2年度にボラネット世話人会がアンケートを冊子の形でまとめました。

平成から令和の時代が変わった令和元年に調査が行われました。この年の環境問題は地球環境問題で、自然環境と言うよりプラスチックゴミやビニールレジ袋等が海洋生物など地球環境汚染問題として大きく取り上げられ始めた時期です。

丹沢大山入山者の環境意識は調査結果を見ると、残念ながら以前の調査時よりも僅かではありますが、後退傾向が見られました。

令和2年度は新型コロナ感染症禍の中で、ボラネット事業は次々と中止を余儀なくされています。環境教育分野でも実践活動等でも停滞してしまいました。

このような状況の中で新しい生活様式の中で、私達ボラネットは事業へ取り組んでいきます。そして今後、最も大切になってくるのは環境啓発活動や体験活動かと思われま

す。丹沢大山総合調査以来、神奈川県とボランティア団体は連携して、丹沢の環境保護保全へ取り組んできました。自信を持って言わせていただきたい事は、丹沢大山地域は今までの先進的取り組みにより、自然環境は目に見える形で復活の傾向にあり、自然の回復が軌道に乗ってきた事です。登山道や危険箇所、トイレ等も整備されて来ました。

それに伴い丹沢入山者も、様々な事業、体験活動の中で環境意識をも向上をしてきました。それは総合調査、前回の調査でも肯定的意識比率が高い事で明らかにされています。

今回のアンケート結果を踏まえ令和の時代に合ったボラネット活動にしたいものです。

働き方改革、新しい生活様式等により新しい丹沢登山者、キャンパー、観光来訪者等が増え「環境啓発活動が全ての入山者には行き届いていない」と思われます。

私達の課題は多方面から県民全体に向け、数多くの場面で積極的に環境啓発活動を進めて行くことです。

次世代の神奈川県民へ豊かな自然のある丹沢大山の自然遺産、文化遺産を遺したいものです。



↑写真 塔ノ岳山頂からの展望
親から子へ遺す丹沢大山自然文化遺産

参考文献「丹沢大山総合調査学術報告書」
平成26年度 丹沢大山登山環境意識調査
写真提供 丹沢自然学校 小林昭五氏

丹沢大山 登山環境 意識調査

丹沢大山地域への入山、登山にかかわる利用の実態、目的、自然環境保全意識などの把握を目的とするアンケート調査です。

ご記入日 : 令和元年 月 日

ご住所 : 神奈川県・() 都道府県

性別 年齢 : 男・女 20歳以下・21~40歳・41~60歳・61歳以上

ご職業 : 会社員・自営業・公務員・専業主婦(夫)・無職・学生・その他()

1 丹沢大山地域でのこれまでの登山回数は?

初めて・2~9回・10回以上(回ぐらい)

2 今回の登山コース

入山場所 : 大倉・蓑毛(ヤビツ峠)・大山バス停・西丹沢・その他()

行き先 : キャンプ場・登山無し・大山・三ノ塔等・塔ノ岳・檜洞丸・畦ヶ丸

縦走()・その他()

下山場所 : 大倉・蓑毛(ヤビツ峠)・大山バス停・西丹沢・その他()

3 次の物をお持ちですか? 登山者のみ□に✓を記入ください。

登山靴 運動靴 紙地図 アナログのコンパス 位置情報アプリ

ヘッドランプと予備電池

4 登山届は? 数字に○を付けてください。

1. 届出済・もしくはこれから提出する
2. 登山届について知らなかった
3. 登山届を知っていたが提出していない

5 入山の目的は? (複数可) 数字に○を付けてください。

1. 健康維持
2. キャンプ
3. 自然観察
4. 写真・写生
5. ハイキング
6. バードウォッチング
7. 森林浴
8. 岩・沢登り
9. 縦走
10. とにかく山頂を目指す
11. その他()

6 丹沢大山地域の魅力は? (複数可) 数字に○を付けてください。

1. 富士山が見える
2. 山並みや眺望
3. 植物や四季の変化
4. 野生動物
5. 沢や滝
6. 交通の便がよい
7. 車で入りやすい
8. 登山道や山小屋などの施設(施設名:)

改善点は? []

裏面へ続く

7 登山道など施設の整備状況は？

良い ・ 普通 ・ もっと整備が必要

ご意見（ ）

8 丹沢大山地域で実施している行事で参加したことのあるものは？（複数可）

数字に○を付けてください。

- 1. 植樹
- 2. 植生モニタリング
- 3. 動物モニタリング
- 4. 森林整備
- 5. 登山道整備
- 6. 清掃登山
- 7. ネット巻き
- 8. 炭焼き
- 9. ボッカ駅伝
- 10. 自然観察会等
- 11. クラフトづくり
- 12. トレイルレース
- 13. ハイキング・ウォーキングイベント
- 14. 岩登り・沢登りイベント
- 15. その他（ ）

9 丹沢大山地域の水場を利用したことがありますか？

ある（よく利用する水場の名前： ） ・ ない

利用目的→ 直接飲む ・ 持ち帰り ・ 顔や手等を洗う

10 次の事項について自然環境への影響はどの程度だと考えますか？

数字に○を付けてください。1 全くない 2 あまりない 3 少しある 4 非常にある 5 わからない

- ① 自家用車の乗り入れ 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5
- ② 野生動物へのエサやり 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5
- ④ 野外での排泄(トイレ) 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5
- ⑤ ゴミのポイ捨て 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5
- ⑥ 登山道を外れて歩く 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5

⑦ 登山の際、自然環境に気を付けていることはありますか。

ある（ ） ・ ない

11 丹沢大山の自然環境を保全するためには、どのような取組みが必要だと考えますか？

[]

協力ありがとうございました。

アンケートの回収方法

- ① 秦野、西丹沢の各ビジターセンター、ヤビツ峠公衆トイレ、大山観光案内所、伊勢原駅観光案内所、山小屋(鍋割山荘、尊仏山荘、みやま山荘、蛭ヶ岳山荘)、新松田駅前おもてなしおやすみ処「つむGO」、日向薬師バス停(トイレ入口)に設置されている回収箱へ入れてください。
- ② アンケートを配布している者が回収します(その場でご記入いただける場合)

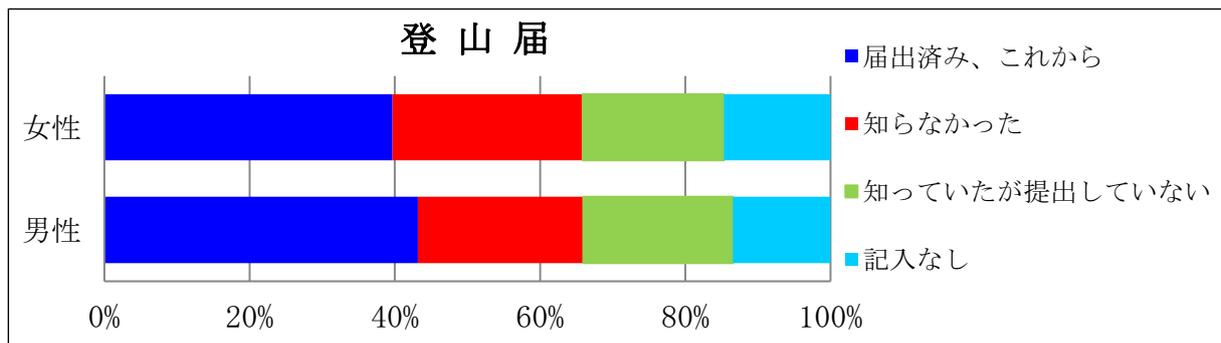
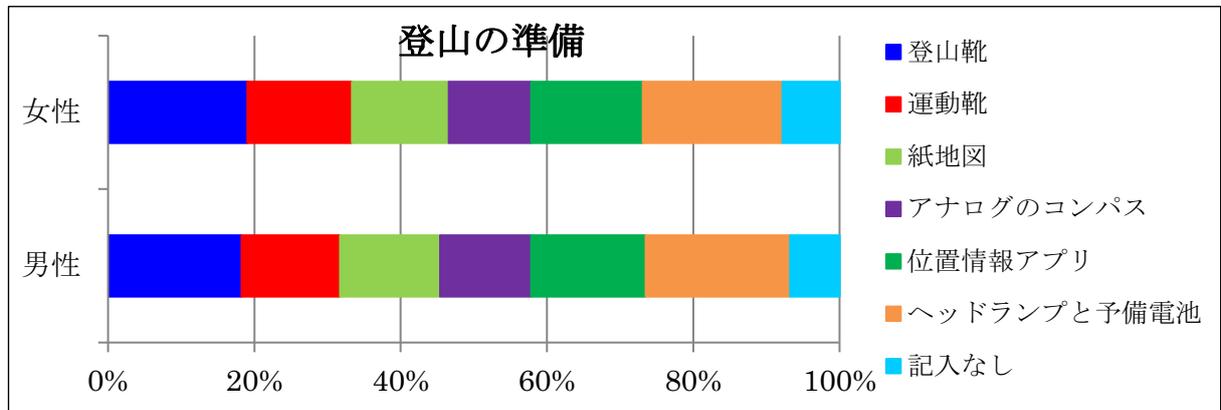
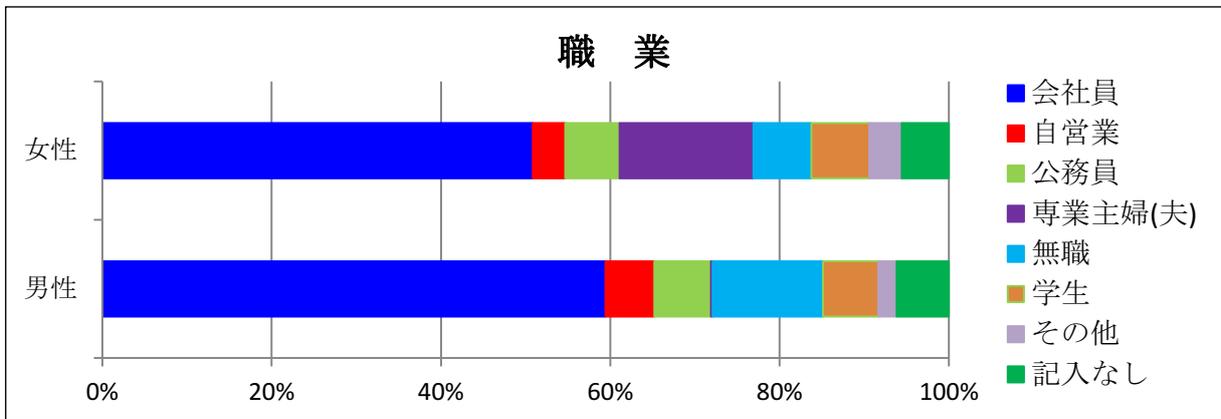
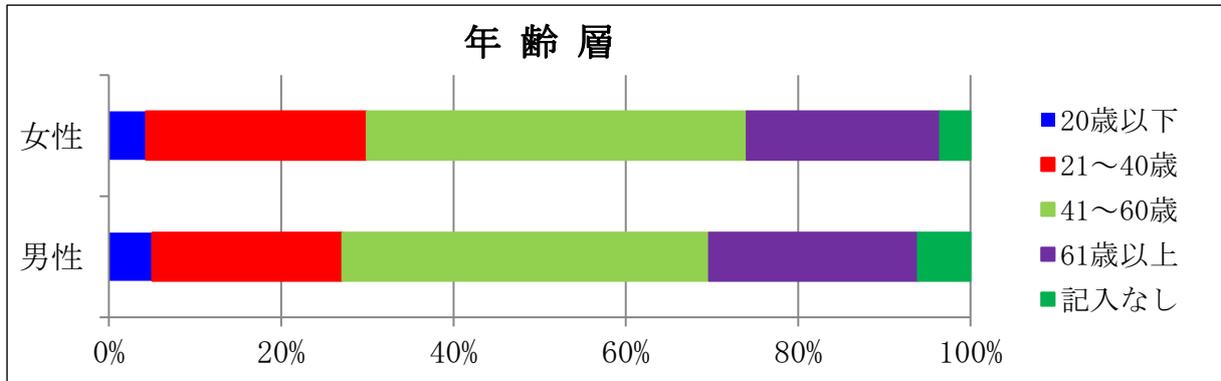
実施期間

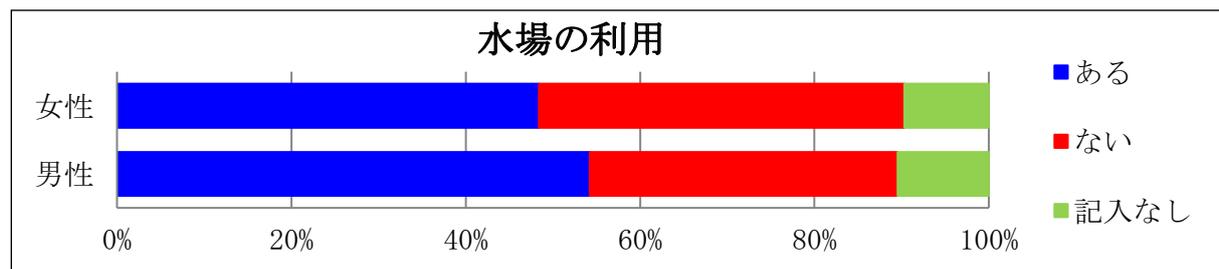
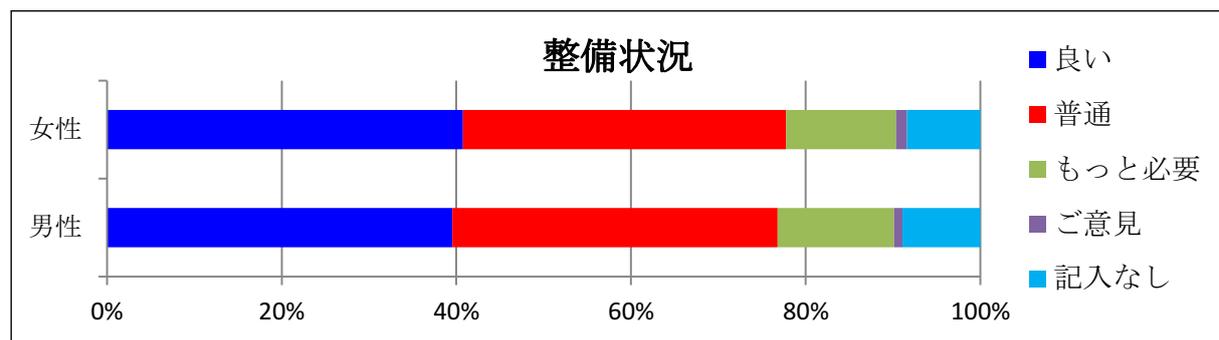
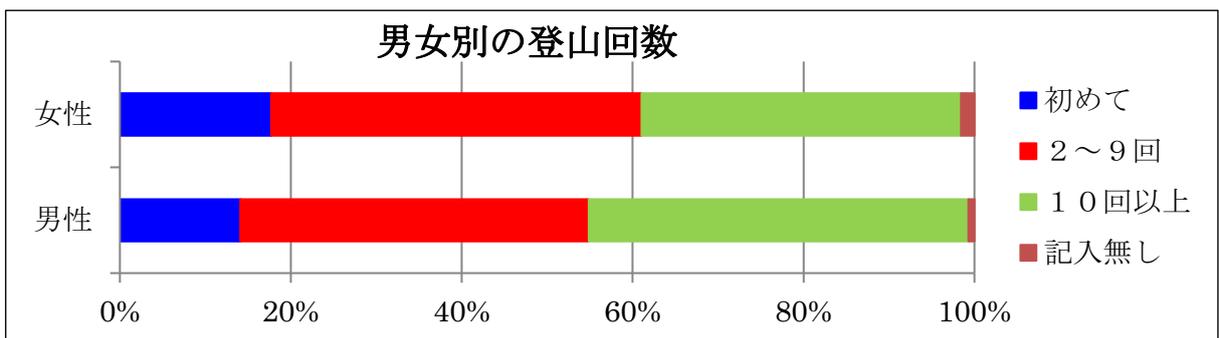
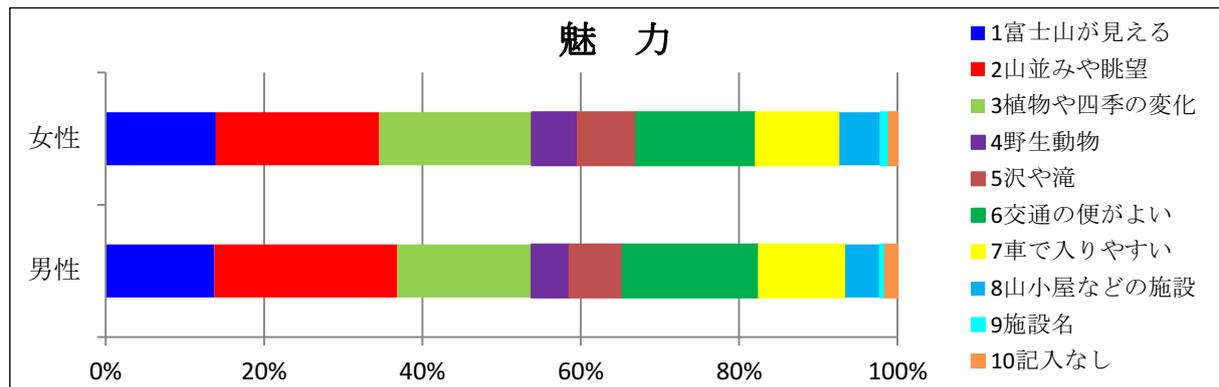
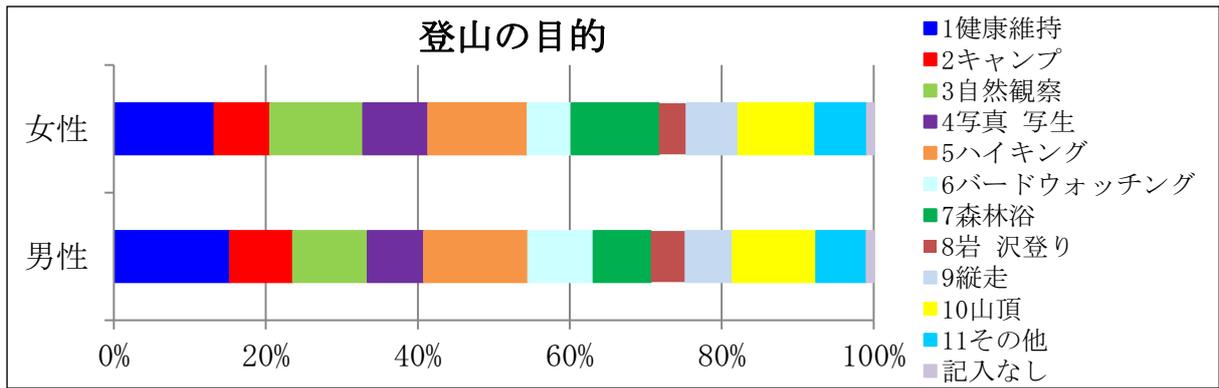
令和元年6月～11月

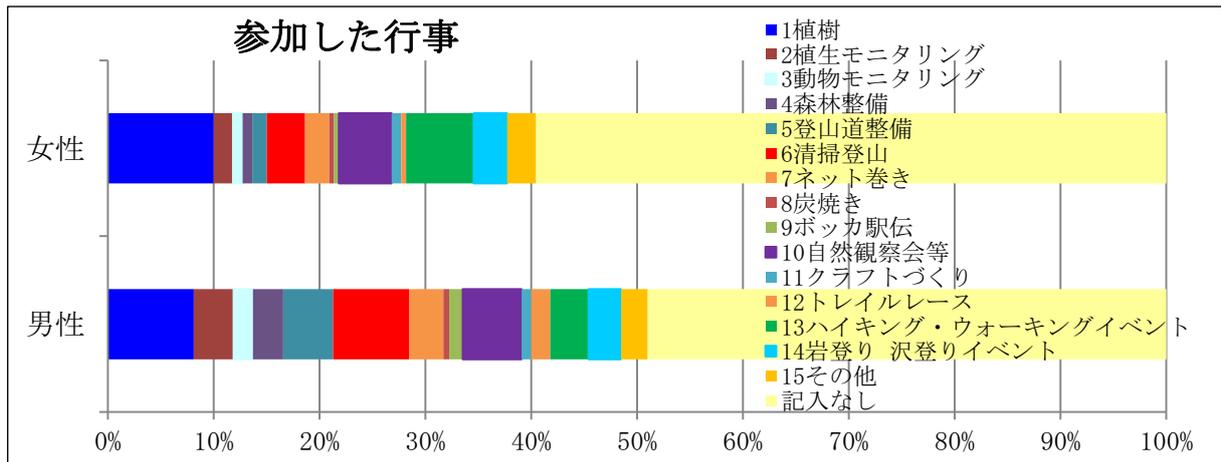
実施： 丹沢大山ボランティアネットワーク
 協力： 丹沢の緑を育む集い実行委員会
 神奈川県自然環境保全センター自然保護課 (電話：046-248-6682)

グラフで見るアンケート結果

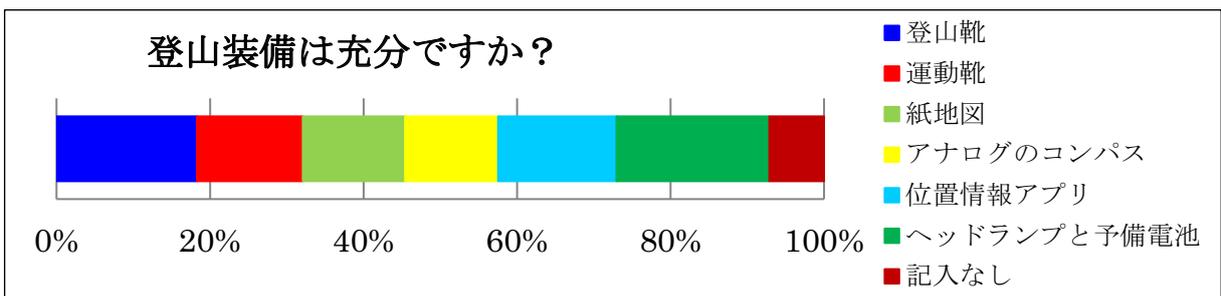
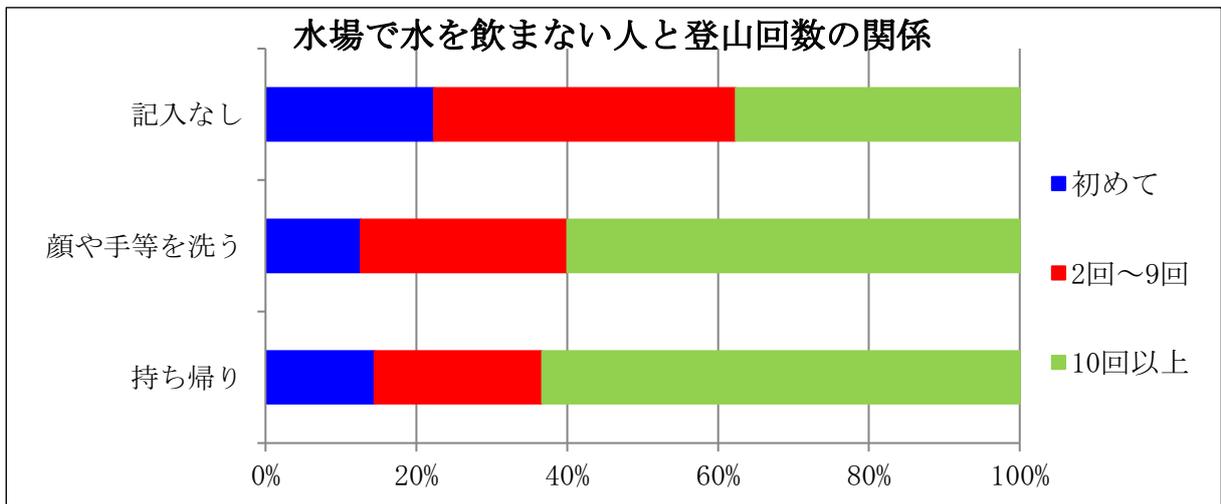
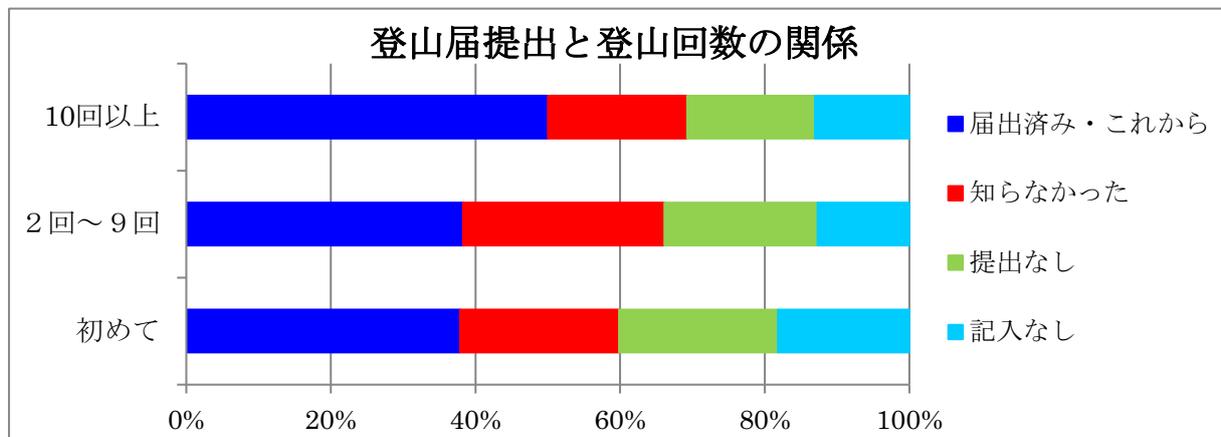
1 男女別の観点から







2 安全の観点から



丹沢大山の四季

春



三ノ塔・ゴヨウツツジ・トウゴクミツバツツジ

夏



西丹沢・西沢（シャワークライミング）

秋



大山を見わたす表丹沢・紅葉

冬



西丹沢・本棚の滝（氷瀑）

丹沢大山登山環境意識調査

主催 丹沢大山ボランティアネットワーク

共同 丹沢の緑を育む集い実行委員会
広域保全活動事業

協力 神奈川県自然環境保全センター自然保護課

電話：046-248-6682

豊かな丹沢の自然を 次世代に遺そう



札掛けのモミ原生林（考証林）

令和3年1月 印刷

令和3年1月 発行

編集 丹沢大山ボランティアネットワーク